

これが 敵基地攻撃能力

「専守防衛」どころか日本が脅威に

5年間で43兆円の大軍拡。岸田政権が購入する兵器は、日本が攻撃されていないのに他国の領域まで踏み込んで攻撃する「敵基地攻撃」兵器がズラリ。

【戦後初めて「空爆」が可能に

一番のカギは、長射程ミサイルです。最初に導入されるトマホークは、イラクやアフガニスタンなどの先制攻撃戦争で繰り返し使用。「12式地对艦誘導弾」という艦船を破壊するミサイルも射程を1000^{キロ}以上に伸ばします。

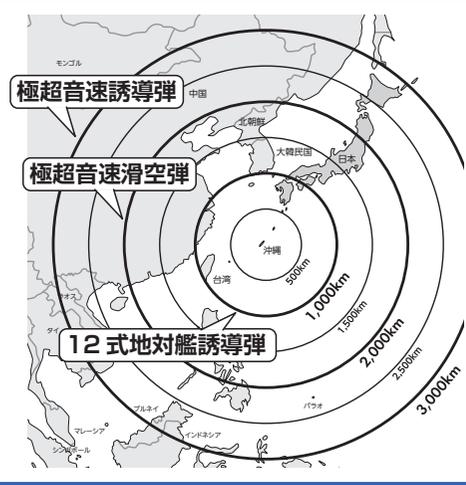
もう一つの問題は、ミサイルを搭載するイージス艦、戦闘機を大量配備し、潜水艦からも発射しようとしていること。相手国近くまで移動。日本が戦後初めて「空爆」が可能になります。

【迎撃不可能な“最悪の兵器”

その先には、さらに恐ろしい計画が。「極超音速」ミサイルの保有です。

トマホークの速度は音速の4分の3程度ですが、極超音速兵器は音速の5倍以上。射程は2000~3000^{キロ}。軌道も自在に変えられ、迎撃は不可能とされる最悪・最強の兵器。中国、ロシアは既に配備しています。「中ロがこの兵器を持つことが脅威で、日本が持つことがなぜ脅威でないのか」。志位和夫委員長の質問（1月31日、衆院予算委）に首相は答弁不能でした。

沖縄本島から発射した場合の射程



一軍拡の悪循環 最後は核武装

現代の戦争は「ミサイル戦争」です。米ソの核ミサイル競争、米国と同盟国による「ミサイル防衛」網の構築、さらに中ロがこれを突破するため極超音速兵器を配備し、日米も同じ兵器で対抗する一。日本は「盾」だけでなく「矛」で、米主導のミサイル戦争に参戦しようとしているのです。

こんな軍拡を繰り返せば、核兵器武装論に行き着かざるを得ません。「岸田大軍拡」を、力を合わせて止めましょう。

導入するスタンド・オフ・ミサイル (長射程ミサイル)

12式地对艦誘導弾能力向上型

射程を従来型の200^{キロ}から1000^{キロ}以上の延伸。地上だけでなく艦船、戦闘機にも配備（開発中）



極超音速高速滑空弾

迎撃困難な高高度を極超音速で滑空し、落下・対地攻撃（開発中）射程は2000^{キロ}?



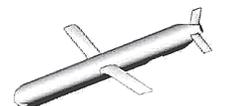
極超音速誘導弾

スクラム・ジェットエンジンを搭載。マッハ5以上の速度で飛行、迎撃困難に（開発中）射程は3000^{キロ}?



トマホーク

イラク、アフガニスタンなど米の先制攻撃戦争で繰り返し使用。射程は1600^{キロ}以上（米から購入）



国会議員団 平和の論戦

日本共産党国会議員団は、今国会で岸田政権による大軍拡を許さないため、「反戦平和の党の存在意義をかけて」論戦しています。志位和夫委員長は、衆院予算委で敵基地攻撃能力保有の根本問題を追及。穀田恵二、赤嶺政賢両衆院議員は、敵基地攻撃を行え

ば、報復攻撃を受け、「日本に大規模な被害」が生じる恐れがあり、沖縄が最前線に立たされる危険があることが明らかにしました。宮本徹衆院議員は、年金や医療費の積立金が軍拡の財源に流用される問題を追及しました。

詳細はこちらから



日本共産党